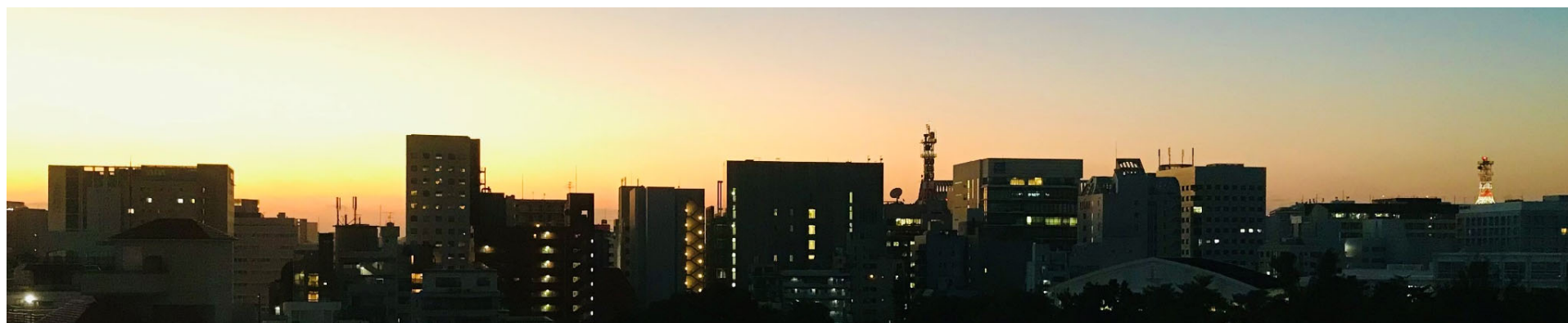


那覇市「市内事業者実態調査事業」 調査概要



那覇市 経済観光部 商工農水課
株式会社情報通信総合研究所

1.調査概要

事業の趣旨～明らかにしたいこと

新型コロナの5類移行後は、行動上の多くの制限は解かれましたが、コロナ禍からの回復状況の可視化、市内の事業者が感じるコロナ禍前後の景況感の比較、成長産業を確認しながら、的確な公的支援の在り方を検討することにより、さらなる好循環を生み出すことができる、と考えています。本調査では、以下に示す「3つの問（*RQ:リサーチクエスチョン）」を明らかにすることを通じて、**効果的な「次の打ち手」**を検討しました。

RQ1

那覇市の事業者からみた景況感とは？**コロナ禍前の状況に回復している？**

RQ2

那覇市産業の強み弱みは？：**成長が期待される産業分野**は？

RQ3

コロナ禍からのV字回復に向けた処方箋～行政施策に期待されている**「次の打ち手」**とは？

調査実施体制

調査実施主体

那覇市 経済観光部 商工農水課

調査受託企業

株式会社情報通信総合研究所

アドバイザー(敬称略)

株式会社イーサー

代表取締役社長 久保田 昌人

NTT西日本

公共営業部門 沖縄振興G 我喜屋 睦

調査方法・期間

市内事業所
アンケート調査

市内約10200の事業
所にアンケート調査

市内団体
ヒアリング調査

商工会議所、観光協
会等

経済分析調査

経済統計を用いた
経済分析

調査期間：令和5年12月～6年3月

2.調査で分かったこと

RQ1

那覇市の事業者からみた景況感は？**コロナ禍前の状況に回復している？**

- ・2023年度は、コロナ禍(2020年～2022年)に比べると、**確実に回復はしているものの、全業種にわたり、コロナ前(2019年)の同等水準、またはそれ以上の回復が期待**される。
- ・とりわけ、那覇市のリーディング産業である観光関連（宿泊業、飲食サービス業）は、最もコロナの影響を受けた。また、規模の小さな事業者ほどコロナ禍の影響による落ち込みは大きく、回復も鈍い。

RQ2

那覇市産業の強み弱みは？：**成長が期待される産業分野**は？

- ・強い産業：「**宿泊業、飲食サービス業**」
- ・力を入れるべき産業：「**医療、福祉**」「**教育、学習支援業**」「**情報通信業**」
- ・今後の強化が期待される産業：「**学術研究、専門・技術サービス業**」
- ・経済分析（特化係数等による産業分析）：「**情報通信業**」「**運輸業，郵便業**」「**卸売業，小売業**」「**宿泊業・飲食サービス業**」

RQ3

コロナ禍からのV字回復に向けた処方箋～行政施策に期待されている**「次の打ち手」**とは？

- ①経営健全化支援
- ②採用力強化
- ③リーディング産業「観光」の魅力向上
- ④就業・生活環境支援
- ⑤キャリア教育の重要性
- ⑥沖縄／那覇の全体的な「意識の底上げ」

3.調査結果

(1)コロナ禍からの回復

RQ1

那覇市の事業者からみた景況感は？**コロナ禍前の状況に回復している？**

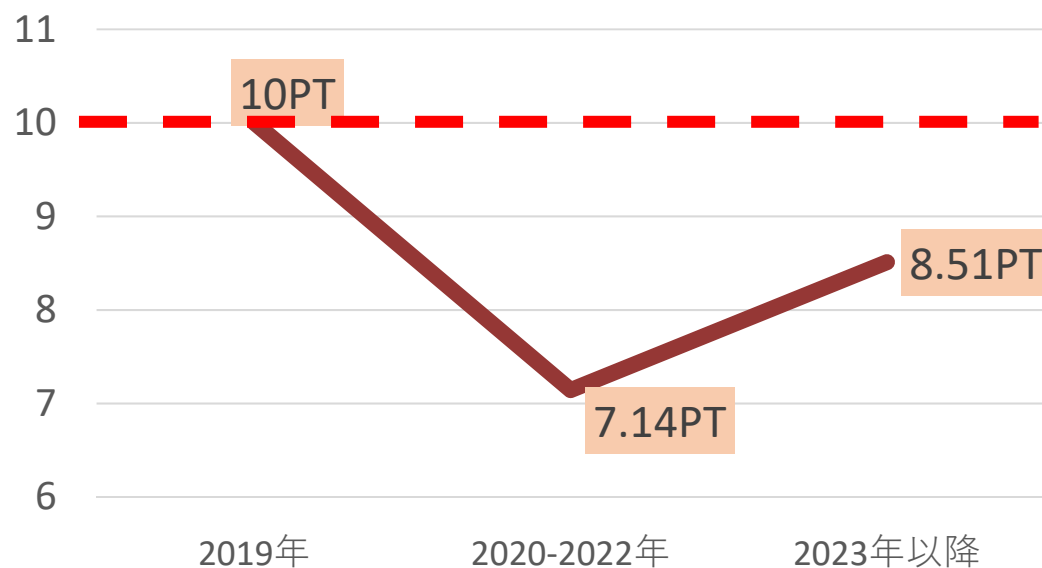


コロナ禍(2020年～2022年)に比べると、確実に回復はしているものの、コロナ前(2019年)の同等水準、またはそれ以上の回復が期待されている。

【景況感の比較】[全事業者]

「Ⅰ.コロナ禍前（～2019年度）」の景気状況を10点とした場合、

「Ⅱ.コロナ禍期（2020年度～2022年度）」「Ⅲ.現在（2023年度以降）」は何点？



回復はしているものの、コロナ前、それ以上の水準にまで回復しているとはいえない。

底上げに向けた行政支援
「次の打ち手」

何を？

どこに？



アンケート調査結果



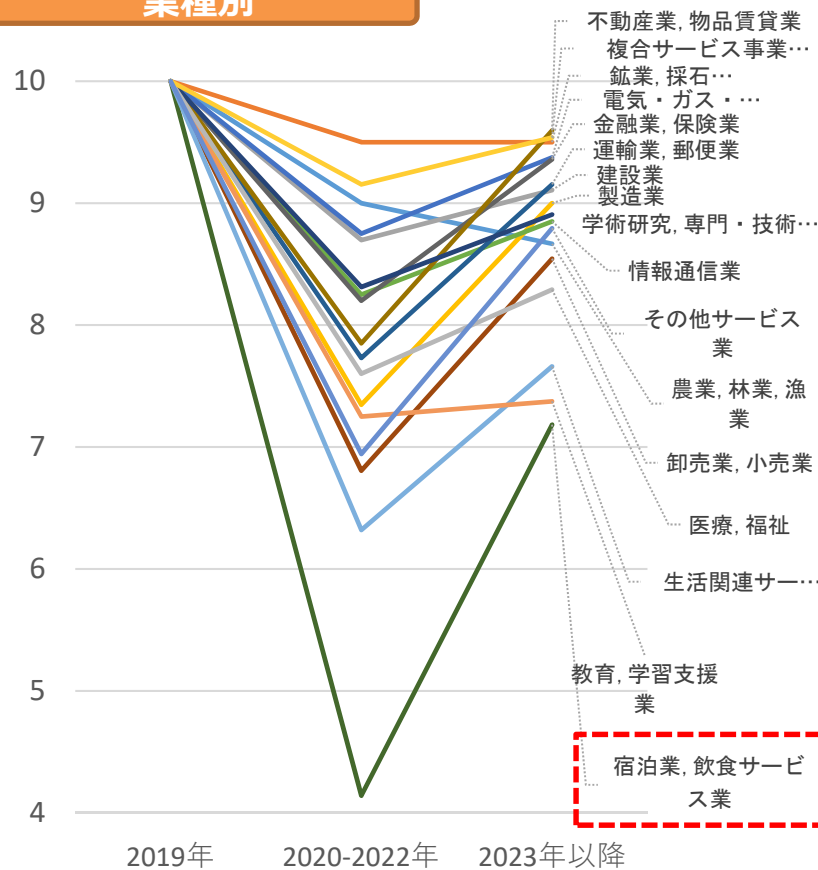
(宿泊業、飲食サービス業) は、最もコロナの影響を受けた。規模の小さな事業者ほどコロナ禍の影響による落ち込みは大きく、回復も鈍い。

【景況感の比較】[業種別]

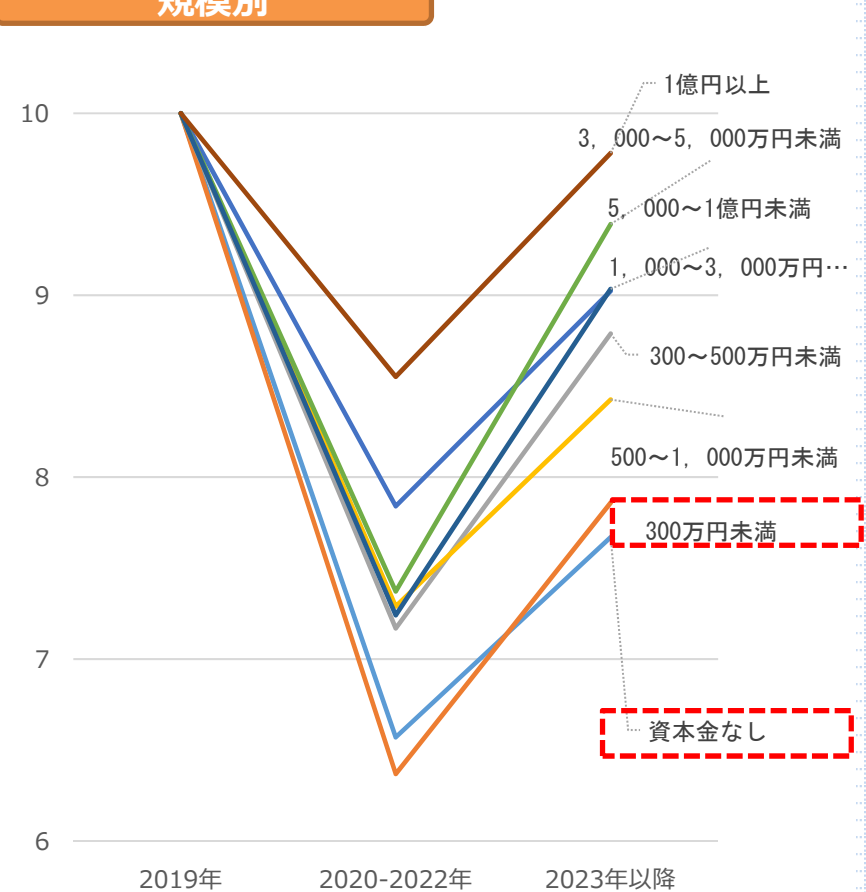
「Ⅰ.コロナ禍前（～2019年度）」の景気状況を10点とした場合、

「Ⅱ.コロナ禍期（2020年度～2022年度）」「Ⅲ.現在（2023年度以降）」は何点？

業種別



規模別

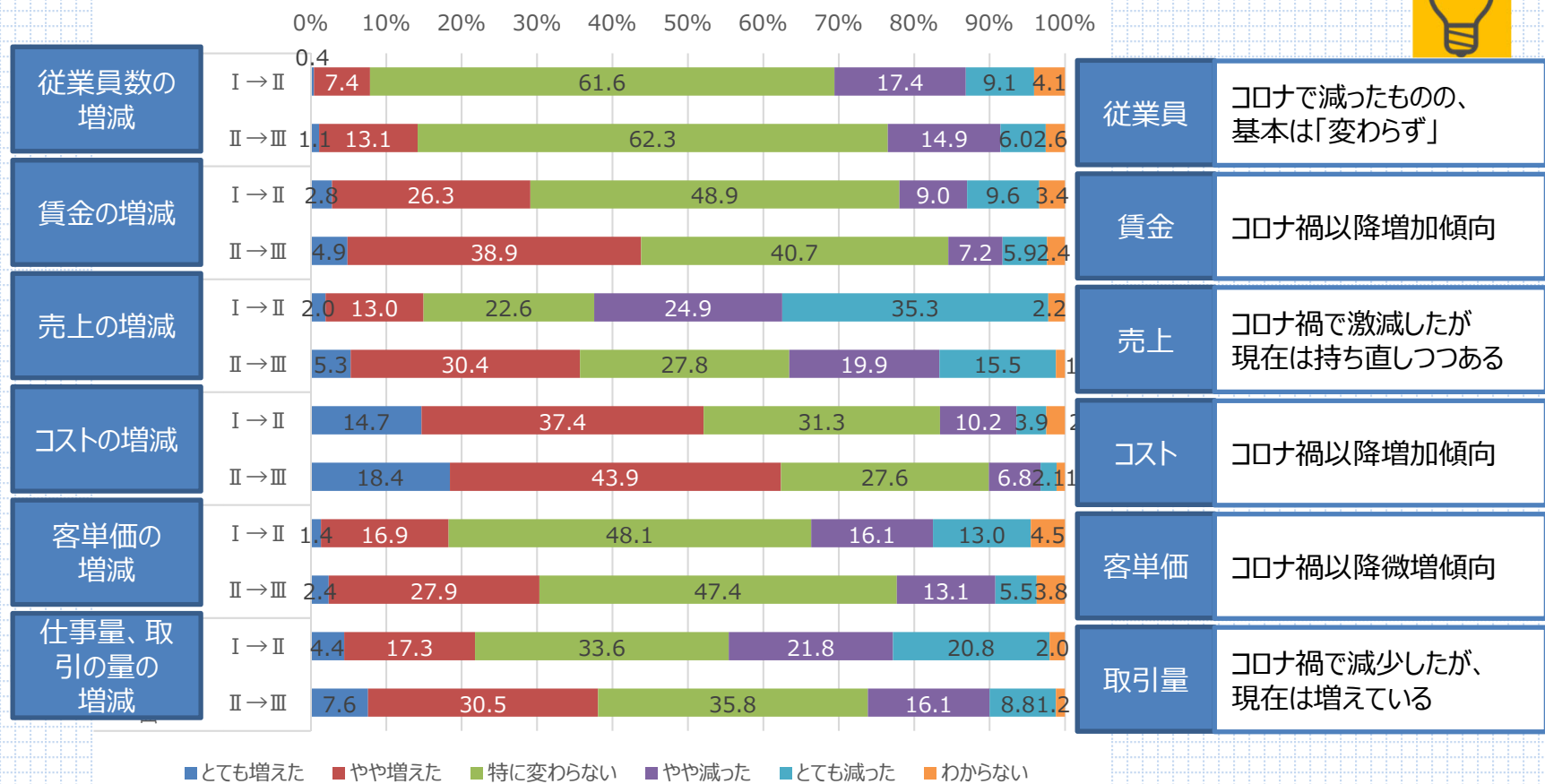




アンケート調査結果

【経営環境や経営要素の変化】[全事業者]

「Ⅰ.コロナ禍前（～2019年度）」「Ⅱ.コロナ禍期（2020年度～2022年度）」「Ⅲ.現在（2023年度以降）」



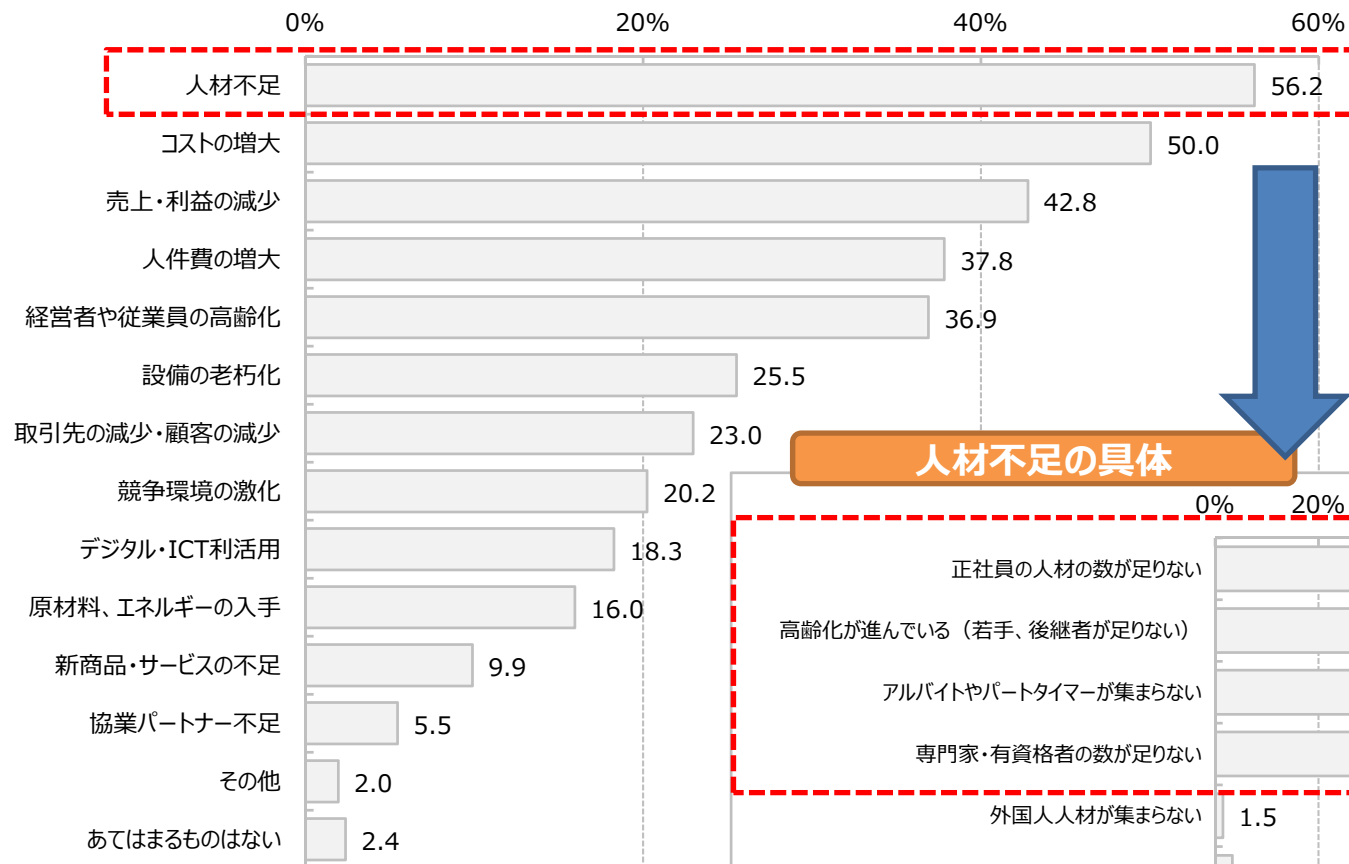


アンケート調査結果

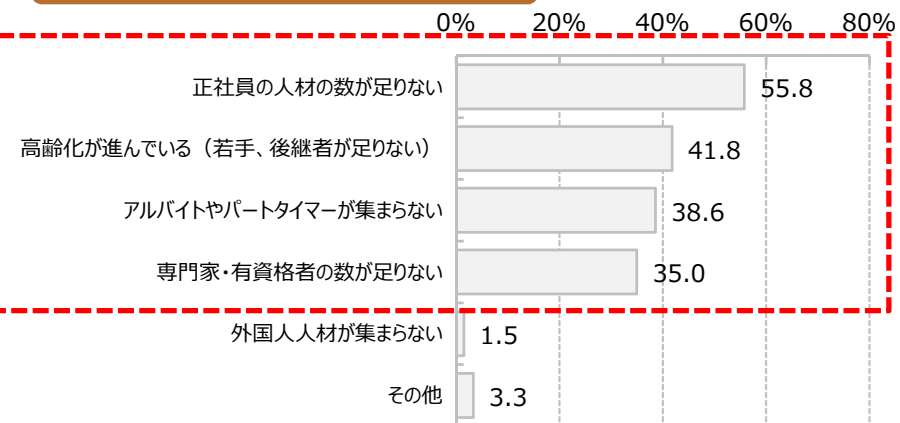


経営課題のうち人材不足が喫緊・最大の課題。
「全方位的な人材不足」が顕在化
(正社員、若手、有資格者、アルバイト等)

現状の経営課題



人材不足の具体



3.調査結果

(2)民間事業者からみた那覇市の産業

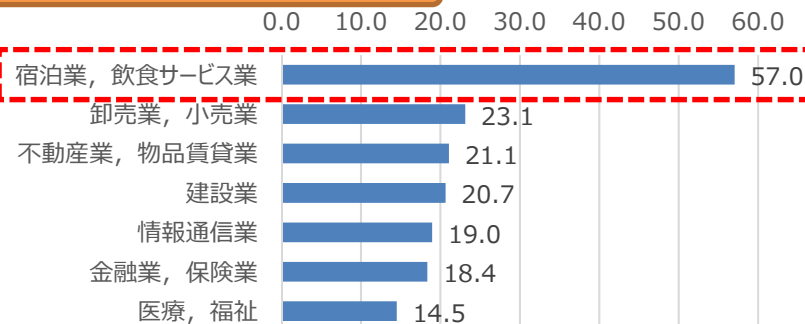
RQ2

那覇市産業の強み弱みは？：成長が期待される産業分野は？

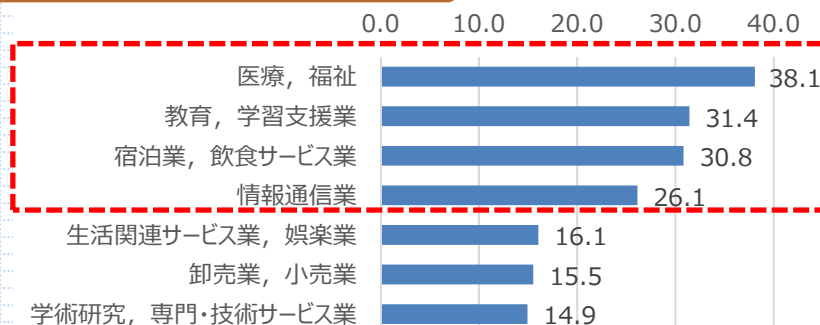


- ・強い産業：「宿泊業、飲食サービス業」
- ・力を入れるべき産業：「医療、福祉」「教育、学習支援業」「情報通信業」
- ・今後の強化が期待される産業：「学術研究、専門・技術サービス業」

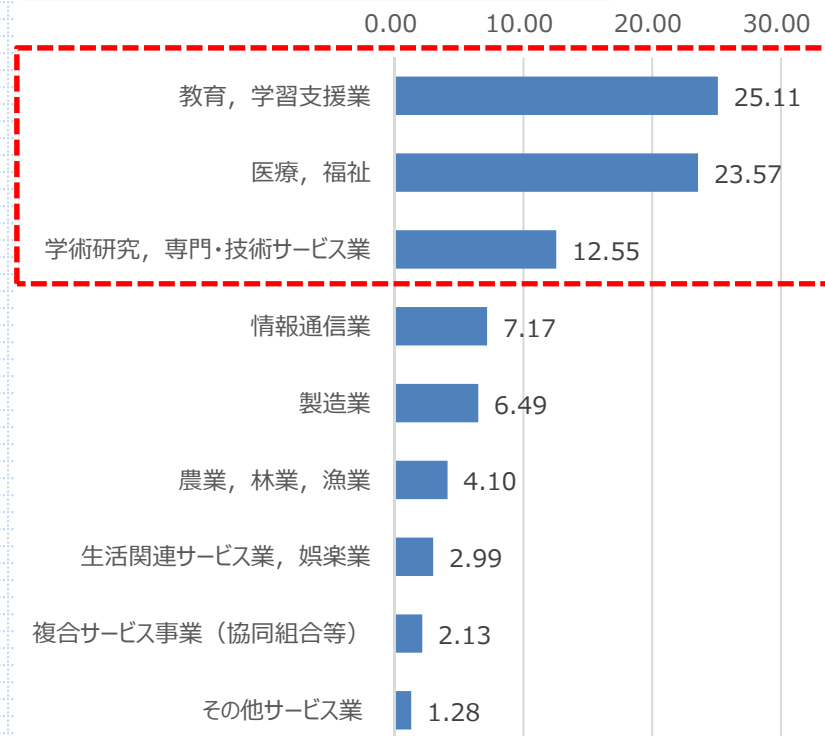
①強いと思う産業？



②力を入れるべき産業？



強化が期待される（①と②の差）

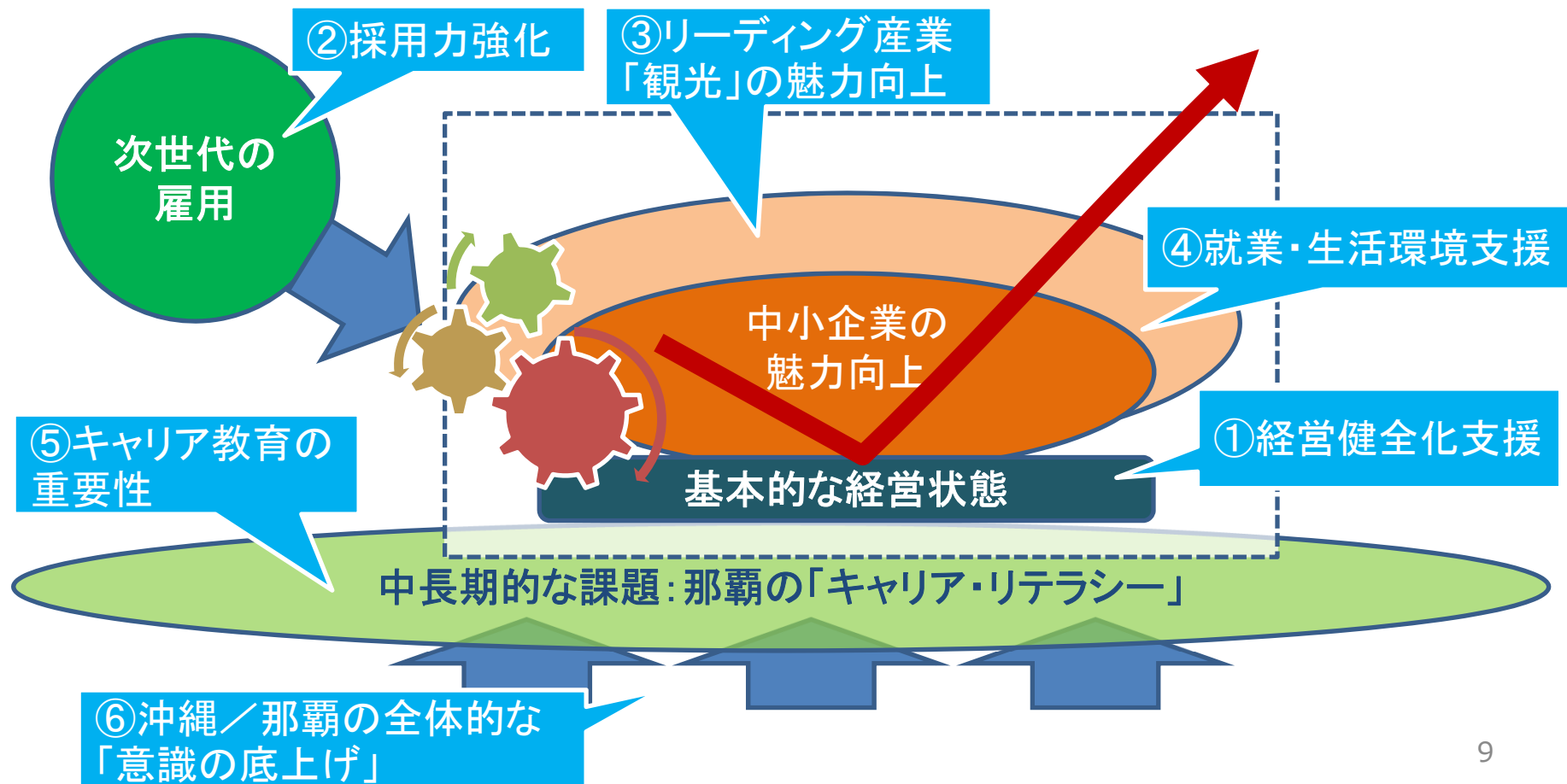


3.調査結果

(3)「次の打ち手」に向けた主な方向性

RQ3 コロナ禍からのV字回復に向けた処方箋～行政施策に期待されている「次の打ち手」とは？

・以下のような方向性への期待が確認できる。





アンケート調査結果

RQ3

コロナ禍からのV字回復に向けた処方箋～行政施策に期待されている「次の打ち手」とは？

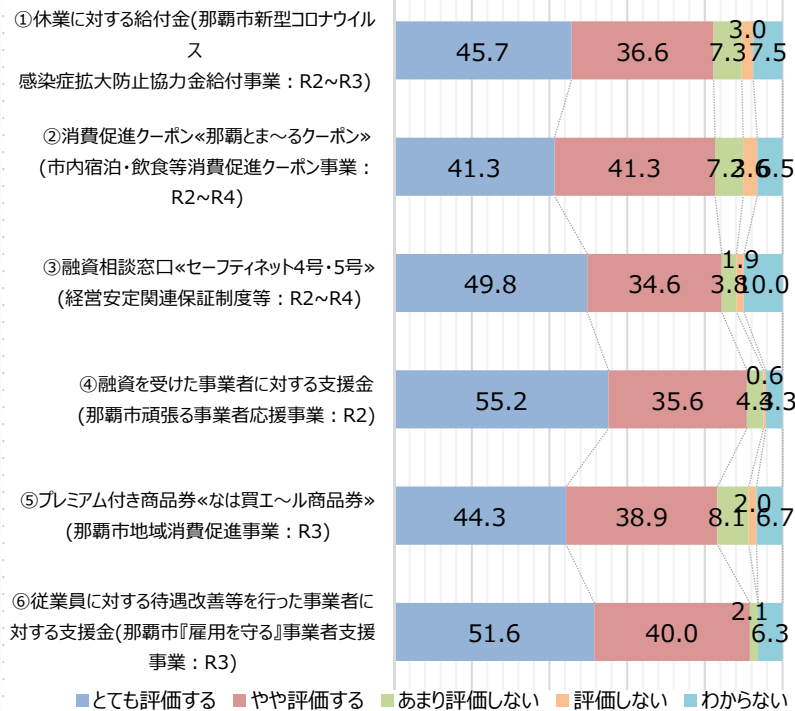


・「補助金・助成金」「人材確保」に対するニーズ

コロナ禍の行政支援

※各事業を利用した事業者の評価

0% 20% 40% 60% 80% 100%



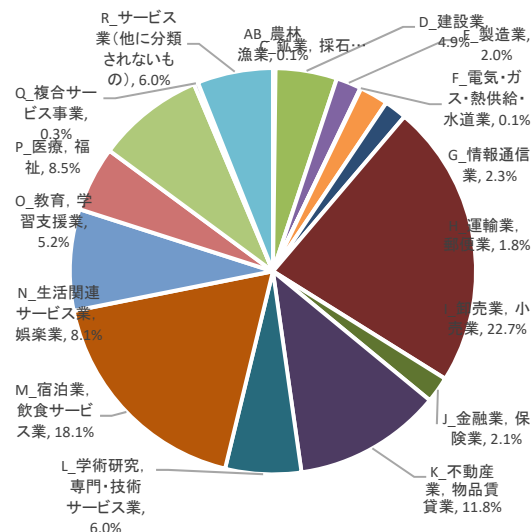
期待される行政支援

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



参考：那覇市（沖縄県）の就業をとりまく主な特徴

事業所の構成比率

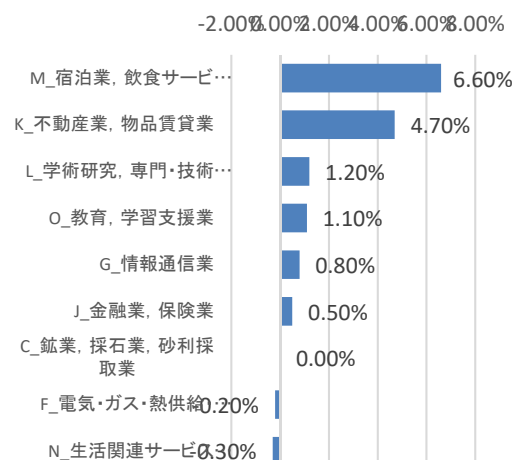


那覇市内で多い産業

「I_卸売業、小売業」
「M_宿泊業、飲食サービス業」
「K_不動産業、物品賃貸業」

「令和3年経済センサス-活動調査事業所に関する集計」より作成

事業所の構成比率 「全国平均」と「那覇市」の比較

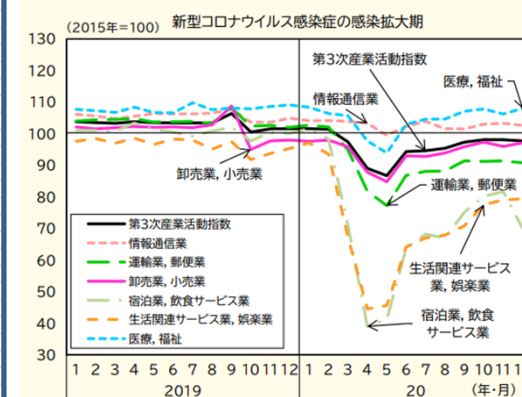


那覇市内：全国との対比において 相対的に多い産業

「M_宿泊業、飲食サービス業」
「K_不動産業、物品賃貸業」

「令和3年経済センサス-活動調査事業所に関する集計」より作成

労働経済の分析 (産業別のコロナの影響)



「第3次産業活動指数については、ほぼすべての産業で低下したが、とりわけ、「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「運輸業、郵便業」「卸売業、小売業」で低下した」

那覇市の産業構造
そもそも
コロナ禍に“打たれ弱い”

参考：那覇市（沖縄県）の就業をとりまく主な特徴

賃金水準が低い

現金給与額、所定内給与額及び年間賞与其他特別給与額（都道府県別・万円）

順位	都道府県名	額
1	東京都	1129.5
2	愛知県	1027.6
3	神奈川県	962.1
～		
45	宮崎県	611.7
46	青森県	597.6
47	沖縄県	495.0

令和5年度地域別最低賃金改定状況（都道府県別・円）

順位	都道府県名	額
1	東京都	1113
2	神奈川県	1112
3	大阪府	1064
～		
45	徳島県	896
46	沖縄県	896
47	岩手県	893

年次有給休暇が少ない 取得率が低い

社会生活基本調査
年次有給休暇がないと回答した割合
（都道府県別・令和3年）

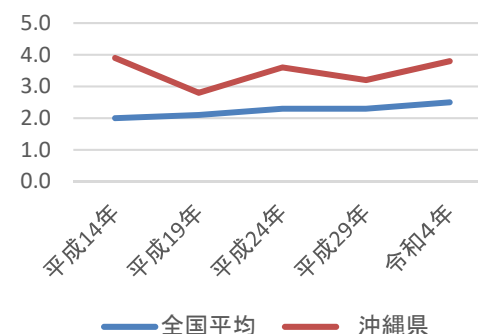
順位	都道府県名	額
1	沖縄県	7.62%
2	山梨県	6.57%
3	鹿児島県	6.37%
～		
45	神奈川県	3.41%
46	富山県	2.78%
47	石川県	2.69%

参考：令和4年就労条件総合調査
年次有給休暇労働者1人平均
（業界別/取得率低い順）

	付与日数	取得日数	取得率
宿泊業、飲食サービス業	14.8	6.6	44.3
卸売業、小売業	17.5	8.7	49.5
教育、学習支援業	18	9	50.1
～			
情報通信業	18.6	11.7	63.2
電気・ガス・熱供給・水道業	19.3	13.8	71.4
複合サービス事業	19.6	14.2	72.4

若者の失業率 （ニート）が多い

都道府県別若年無業者割合
（15～34歳人口に占める割合）
就業構造基本調査



	全国	沖縄県	沖縄県順位
平成14年	2.0	3.9	47位
平成19年	2.1	2.8	45位
平成24年	2.3	3.6	46位
平成29年	2.3	3.2	47位
令和4年	2.5	3.8	45位

※若年無業者（いわゆる『ニート』）
15～34歳の無業者で、家事も通学もしていない者のうち、①就業を希望している者のうち、求職活動をしていない者（非求職者）②就業を希望していない者（非就業希望者）



ヒアリング調査/ディスカッション結果(1/2)

①経営健全化支援

- ・まずは「中小企業の健全化」に向けた支援、事業課題の把握・棚卸
- ・「気軽に相談できる窓口」（よろず支援拠点、商工会議所等）との有機的な連携

②採用力強化

- ・全国的に「賃金」は軒並み高騰。採用時の賃金”以外”の一工夫。
- ・県外からの就活支援
- ・若者の職業観、メディア活用の変容とそれに合わせた「採用力強化」の工夫
例：ショート動画の活用、那覇の魅力を行政一体として伝える工夫 など

③リーディング産業「観光」の魅力向上

- ・量の観光から質の観光への転換
- ・就業先としての「観光分野」の魅力向上に向けて
例：観光分野 進学をサポートするための奨学金制度 など



④就業・生活環境支援

- ・中小企業の就業を促すための支援の在り方検討
例：駐車場利用、居住費、テレワーク・コワーキング活用支援
外国人労働者に対する生活環境のケア など

⑤キャリア教育の重要性

- ・若い世代（中学生など）から、キャリアの選択肢を思い描くことはとても重要
- ・具体の職業を意識するための支援
例：専門学校による出張授業など
- ・産業分野との連携、実務家教員による教育の展開支援

⑥沖縄／那覇の全体的な「意識の底上げ」

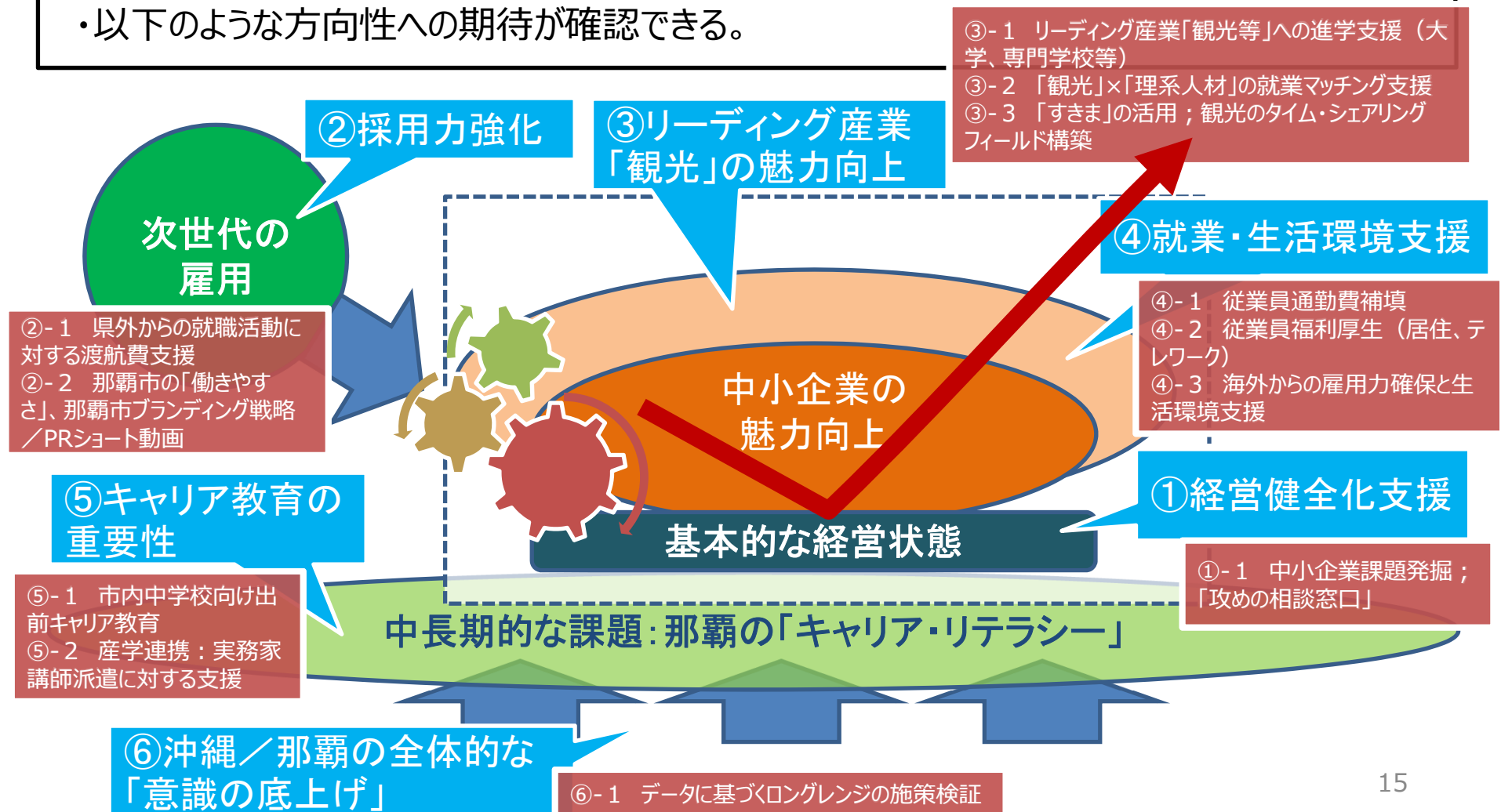
- ・沖縄の特徴「低賃金」「年次休暇をとりづらい」「若者の失業率が高い（いわゆる“ニート”が多い）」
- ・経営者層の意識：現状維持志向
- ・データ検証によるロングレンジの施策検証

3.調査結果

(3)「次の打ち手」に向けた主な方向性

RQ3 コロナ禍からのV字回復に向けた処方箋～行政施策に期待されている「次の打ち手」とは？

・以下のような方向性への期待が確認できる。





「次の打ち手」 参考アイデア

次の打ち手	参考アイデア
①経営健全化支援	①- 1 中小企業課題発掘 ; 「攻めの相談窓口」
②採用力強化	②- 1 県外からの就職活動に対する渡航費支援 ②- 2 那覇市の「働きやすさ」、那覇市ブランディング戦略／PRショート動画
③リーディング産業「観光」の魅力向上	③- 1 リーディング産業「観光等」への進学支援（大学、専門学校等） ③- 2 「観光」×「理系人材」の就業マッチング支援 ③- 3 「すきま」の活用 ; 観光のタイム・シェアリングフィールド構築
④就業・生活環境支援	④- 1 中小企業（強化産業）向けの従業員通勤費補填 ④- 2 中小企業（強化産業）向けの従業員福利厚生（居住、テレワーク） ④- 3 海外からの雇用力確保と生活環境支援
⑤キャリア教育の重要性	⑤- 1 市内中学校向け出前キャリア教育 ⑤- 2 産学連携：実務家講師派遣に対する支援
⑥沖縄／那覇の全体的な「意識の底上げ」	⑥- 1 データに基づくロングレンジの施策検証